

主要地方道川越入間線藤沢橋架け換えに関する工事説明会

～ 質疑応答の概要 ～

■工事中の安全対策について

Q. 架け換え工事のうち、河川内で行う作業を行っている期間中に、川の増水があった場合はどのように対処するのか？

A. 河川内の作業は、渇水期である11月から5月の間に行います。また、仮設図面で示したとおり、断面積としては施工時のほうが大きくなります。ただし、施工箇所の上流も締め切っており、仮設の配管の能力を超える可能性もゼロではありません。
その場合は、施工業者が予備のポンプで対応するなど、現場での対処を行います。

Q. 仮設物を設置中に増水がある場合など、想定外に水位が上がることもある。現在、堤防上に土のうを設置してあるが、同様の対応はできるのか？

A. 現状の土のうの高さと同程度の水位まで対処できるように、現場管理をしていきます。

■工事の進め方について

Q. 工事はどのような単位で発注していく予定か？

A. 工程表にある令和3年度、4年度、5年度のそれぞれの期間に予定している工事ごとに毎年1本の工事で発注していく予定です。

■工事中の周辺道路の通行について

Q. 藤沢南小学校の通学路について、市道幹12号線の交差点で県道を渡るため、登校時に生徒が信号待ちをするスペースを設けるとのことだが、この広さで大丈夫か？

A. 通学路については、現在藤沢南小学校と調整中で、この交差点を通るルート以外のルートにも分散させることも検討していると聞いています。

Q. 市道F97号は工事期間中、県道と直接行き来ができない時期があるとのことだが、市道12号線を経由して北側からは行き来するしかないということか？

A. ご不便をおかけしますがそのようになります。

■工事完了後の県道本線の形態について

Q. 本線完成後、県道の高さは変わるのか？

A. 県道がカーブしているので、車道は外側（南側）に向かって高くなる。南側は現状でも土地が低いので、本線計画図に示しているように法面となる。北側については道路と民地の間にそれほど高低差は生じません。

Q. 本線完成後、歩道は今より広くなるのか？

A. 標準で2.5mの幅員の歩道を両側に設けます。一部、横断歩道橋の付近は幅がとれないため、2.5m確保できないところがあります。

■藤沢橋の上流にある桜の木について

Q. 藤沢橋の上流に桜の木がある。桜の季節には楽しみにしているが、かなり川側に張り出していて、治水上は危険なように見える。この工事で対処する予定はあるのか？

A. この桜の木は、ご指摘のように流水を阻害する恐れがあることや、仮橋の設置に支障となる可能性もあることから、取り扱いについては河川の担当とも検討しているところです。木を切る際には、地域のみなさんにも連絡した上で、対処します。

■工事による影響についての家屋調査

Q. 家屋調査の案内が来たが、どのように進めるのか？

A. 工事で矢板や杭などを打ち込むため、振動等の影響があった場合に備えて、近辺のお宅へは事前調査を行う案内をお送りしました。現在、日程調整をして順番に調査に伺っています。

工事終了後には事後調査を行うこととなります。万が一、建物にひびが入ったなど影響が出た場合は、補償をいたします。

■不老川の治水対策について

Q. 今回の事業によって藤沢橋が架け換ると、上流で溢れていた水が下流で溢れるようになるなど、影響が出ないのか？

A. 橋りょうのボトルネック部の対策をするだけで、上流側の断面をすべて広げるわけなので、流れてくる流量が大きく増えるものではありません。また、橋りょう部の改修に加えて、大森調節池の整備も進めるので、これによっても治水安全度が向上します。